

松平家史料展示室 企画展

勇壮のよそおい

— 甲冑・陣羽織・火事装束 —

●主催 福井市立郷土歴史博物館

●会場 松平家史料展示室

●会期 令和2年10月10日(土)

～11月29日(日)

甲冑・陣羽織・火事装束は、いずれも戦時や火事といった非常時の装備として発達した衣装です。甲冑は江戸時代、戦乱の無くなった太平の世にあっても、武士を武士たらしめる備えの一つとして重視され、武家の表道具として調えられました。一方、江戸時代以降、人口の集中した都市部では頻りに火事が発生しましたが、火災から避難したり、現場周辺に出馬する際などに、火の粉から身を守るために着用したのが火事装束です。

江戸時代の大家においては、平時の衣服とは別に、これらの「非常時」の衣服や装備が調えられ、専門の役人によって管理されました。江戸時代の武家を取りまく歴史的な背景とともに、奇抜なデザインや特殊な材質など、大家の勇壮な姿をお楽しみください。

甲冑

甲冑は、胴体に着用する〈よろい〉と、頭にかぶる〈かぶと〉からなる装備です。戦場での攻撃に対して、身体を保護するために着用した武装で、古くは、弥生時代の出土品が見られます。室町時代中期以降は、甲冑に代えて「具足」と呼ぶようになりました。室町時代末期の戦国乱世によって、実用的で簡易な構造に変化した具足は、特に「当世」具足と呼ばれます。江戸時代半ば以降は太平の世となり、実用を無視した飾り具足と変化したと言われています。

越前松平家では、特に7代藩主吉品が武勇に名高く、武具を愛好した「物数奇」との記録が残っています(『探源公行状記』)。吉品が発注して制作された甲冑は幕末の16代藩主春嶽所用として伝わったものも多く、甲冑が大家の表道具として代々受け継がれていったことがわかります。

陣羽織

陣羽織は、鎧具足の上に羽織る外衣です。陣中で威容を示すために用いられたのが始まりです。戦場で自らの存在を誇示するために、舶来の希少な裂を用いたり、奇抜な色彩やデザインが好まれました。戦の無くなった江戸時代には、甲冑とともに引き続き、武家の備えとして調えられました。

火事装束

火事装束は、火災時にのみ着用する特別の衣装です。江戸時代には、都市への人口集中とともに火災が頻りに起こり、藁や萱、板木などの建材の特性から、たちまち大火災へと進展しました。「火事と喧嘩は江戸の華」という言葉に知られるように、江戸時代後期の江戸城下では、年間数十回の火災が発生しました。福井城下では、江戸時代前期の万治2年(1659)と寛文9年(1669)の2度の大火が確認され、寛文の大火では福井城の大部分を焼失しています。

火事装束は羽織、胸当、小袴で構成され、頭には陣笠や火事頭巾などを被りました。やはり武家の備えの一つとして、男女ともに一揃いを所持しました。生地には、羊毛からなる羅紗が用いられることが一般的です。これは、絹や麻と比べて、耐火性に優れていたためです。羅紗は、生地や染料が高価なだけでなく、「切り嵌め」や「切り付け」といった通常の着物とは異なる縫製技術が必要で、また龍虎や鯉の滝登りなどの装飾的な刺繍が施された物もありました。春嶽は「コレ實ニ高価ナルモノ、ヨシ」と記しています(『幕儀参考』)。



魚鱗具足
越葵文庫(当館保管)



黄羅紗地葵紋付火事装束
福井市春嶽公記念文庫

火事装束は、具足や武具に準じる装備として、専門の役人によって管理されました。

企画展「勇壮のよそおい」展示作品一覧

No.	名称	員数	時代	伝来・作者等	所蔵
火事装束					
1	兜頭巾・羅紗地三段綴付	一頭	幕末・19世紀	16代藩主松平春嶽所用	福井市春嶽公記念文庫
2	紫羅紗地葵紋付火事羽織	一領	幕末・19世紀	〃	〃
3	黄羅紗地葵紋付火事羽織	一領	幕末・19世紀	〃	〃
4	錦小袴	一腰	幕末・19世紀	〃	〃
5	白羅紗地葵紋散綴・胸当・腰当	一組	幕末・19世紀	〃	越葵文庫
6	赤羅紗地葵紋散綴	一枚	幕末・19世紀	〃	福井市春嶽公記念文庫
7	臙脂紵地葵紋付火事羽織 ・胸当・腰当	一組	嘉永2年(1849)	〃	〃
甲冑					
8	魚鱗具足	一具	江戸時代中期・ 18世紀	7代藩主吉品 8代藩主吉邦 16代藩主春嶽	越葵文庫
9	魚鱗具足金具	一括	〃	〃	越葵文庫
10	諸葛巾形兜	一頭	〃	〃	越葵文庫
11	(模造)新田義貞兜	一頭	(原品：銘「元應元年 八月 相模国□□」)	(原品：明暦年間新田塚付近 より出土、伝新田義貞所用)	当館 (原品：藤島神社)
12	鋌閉具足	一具	江戸時代中期・ 18世紀	7代藩主吉品 伝15代藩主齊善	越葵文庫
13	南蛮兜	一頭	〃	〃	〃
14	黄唐茶具足	一具	江戸時代中期・ 18世紀	9代藩主宗昌 16代藩主春嶽	越葵文庫
15	菱形兜	一頭	〃	〃	〃
16	具足下籠手・小袴	一具	江戸時代後期・ 19世紀	〃	越葵文庫
陣羽織					
17	白糸威陣羽織	一領	嘉永7年(1854)	16代藩主春嶽	福井市春嶽公記念文庫
18	葵紋付陣笠	三種	江戸時代後期・ 19世紀	〃	越葵文庫
19	赤羅紗地紗綾形模様袖付陣羽織	一領	〃	〃	越葵文庫
20	茶頭文紗地蜻蛉模様陣羽織	一領	〃	〃	越葵文庫
21	茶頭文紗地葵紋付陣羽織	一領	〃	〃	越葵文庫
古記録					
22	幕儀参考	一冊	明治14年(1881)頃	松平春嶽著	福井市春嶽公記念文庫
23	探源公行状記	一冊	文化9年(1812) 2月写	村田氏章作、鈴木長恒写	当館

※作品 No. は、展示順序とは異なることがあります。

主要参考文献・古記録

『御召料御具足并秘密御道具』江戸時代後期、松平文庫(福井県文書館保管)
村田氏章作、鈴木長恒写『探源公行状記』文化9年2月写
松平春嶽著『幕儀参考』明治14年頃(『松平春嶽全集 第一巻』所収、原書房、1973年4月発行)
尾崎元春『日本の美術 甲冑』至文堂、1968年発行
鈴木敬三編著『有職故実大辞典』吉川弘文館、1995年発行
福井市立郷土歴史博物館編『甲冑の美』、2013年発行

展示解説シート No.136

令和2年10月10日発行

福井市立郷土歴史博物館

〒910-0004 福井市宝永3丁目12-1
電話 (0776) 21-0489 FAX (0776) 21-1489
担当 佐々木佳美

印刷 宮本印刷

次回の展示

松平家史料展示室

企画展「福井藩の年中行事と武家のくらし」

令和2年12月3日(木)～令和3年1月24日(日)